

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

宮城県栗原市 栗原市立栗原中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	18	対象	ド訓	救臨感災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
65,811	22,277	-	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

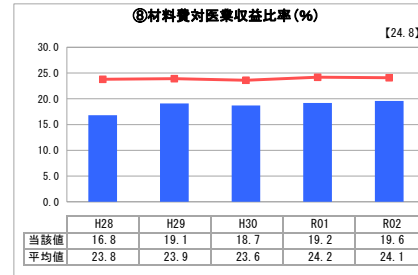
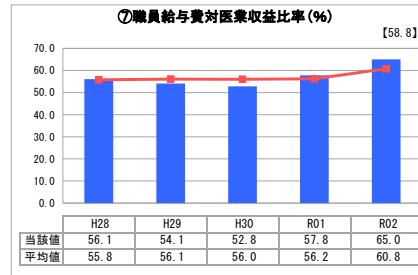
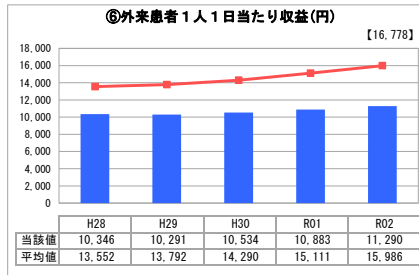
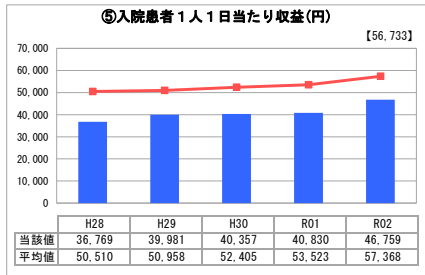
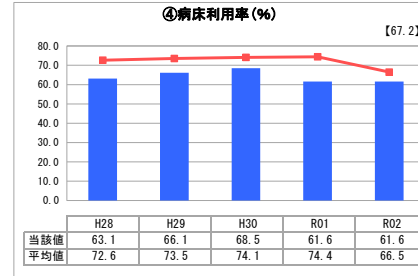
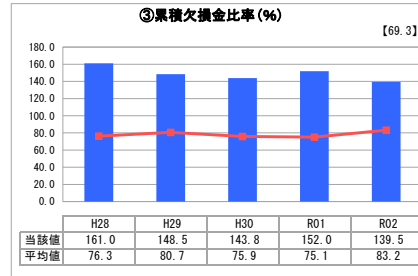
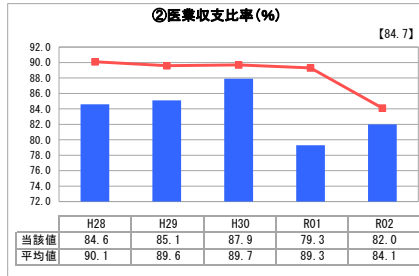
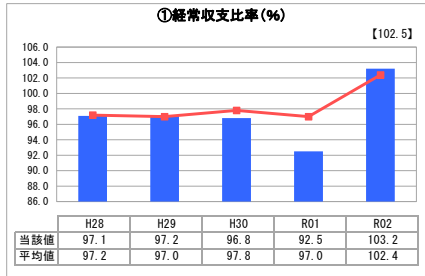
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
267	17	28
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	1	313
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
229	26	255

グラフ凡例

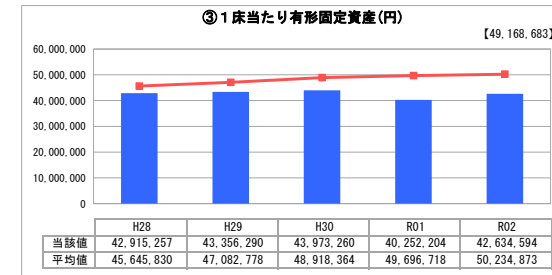
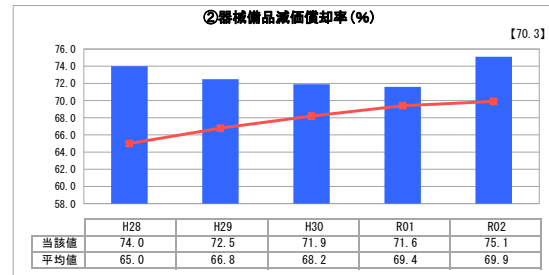
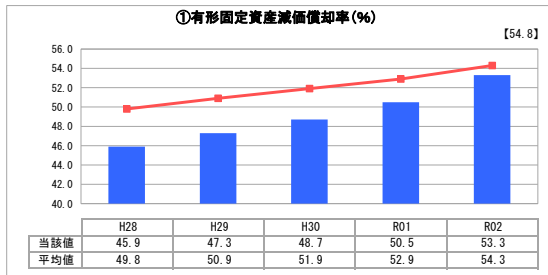
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

医職・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-

## I 地域において担っている役割

- ・ 地域の中核病院として高度医療及び二次救急医療
- ・ 急性期医療を中心に、小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療
- ・ 災害拠点病院
- ・ 基幹型臨床研修指定病院
- ・ 第二種感染症指定医療機関

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は103.2%となり、平均値を上回った。コロナ対応による補助金等の収益が大きな要因となっている。

病床利用率は平成30年度まで右肩上がりで推移してきたが、令和元年度から結核専用病床を、また令和2年度から新型コロナウイルス専用病床の運用を始めたことから、非常に低い数値となっている。

医療収益は、一般病床の患者数や診療単価が増ったことにより、前年度と比較し266百万円の増となったものの、医療費用も診療材料や委託料の増により135百万円の増となった。今後は可能な限り医療費用を抑制することが、医療収支比率改善に繋がるものと考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

開院より18年経過し、医療機器や冷暖房設備等の老朽化が目立ってきている。

個別の故障については、その都度修繕により対応しているが、今後は計画的な医療機器や設備の更新を行っていく。

### 全体概括

常勤医師不足の解消による収入増を図るほか、医療機器購入費や診療材料購入費、業務委託費等の適正化に努める。

また、新型コロナウイルス対応が終息した際には、専用病床の廃止を予定しており、地域の人口減少に見合った事業規模の見直しを行い、一層の経営改善を図っていく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。